

研究活動

南 昌 宏

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表 の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会等の名称	概 要	編者・著者名 (共著の場合 のみ記入)	該当頁数
(著書) 1. 『白川静の世界』(仮題)	共著	2010. 9 (平成22年9月)	平凡社	「古代思想の問題点」「白川静の(儒)論」の2章を執筆。白川静の業績を一般向けに解説している。	加地伸行編	2-35頁
(学術論文) 1. 『周礼』における鄭玄の思想	単著	1991. 2 (平成3年2月)	大阪大学修士論文	鄭玄が最も重視する経書である『周礼』の注釈を通じて、鄭玄が理想とする国家とは何か、理想的国家は実現可能か、を論じる。		
2. (日本における『周礼』研究論考) 略述	単著	1991. 6 (平成3年6月)	『中国研究集刊』10	日本国内のものを中心に、『周礼』に関する研究史をまとめ、問題点を指摘する。		84-92頁
3. 鄭玄の感生帝説一周の始祖説話を中心として	単著	1992. 8 (平成4年8月)	『中国研究集刊』11	識緯思想のひとつと認識されがちな感生帝の物語を、経学上の問題としてとらえなおした。更に、鄭玄は経書と緯書とを有機的に結び付ける学説にまで、感生帝の物語を昇華したと考える。		44-66頁
4. (鄭玄の経学) に表れた人物評価	単著	1992. 12 (平成4年12月)	『待兼山論叢』26	子路・魯の哀公・王莽という三人に対する著述態度を考察することにより、「先入観の排除」と「事実の重視」という二点が鄭玄の基本的姿勢であると結論づける。		17-33頁
5. 中井履軒撰『古文真宝雕題』について	単著	1993. 1 (平成5年1月)	『懐徳』61	大阪大学付属図書館が蔵する『古文真宝雕題』五種類のテキストに関する書誌の報告と、個々のテキストの比較による相互関係の考察。		44-55頁
6. 中井履軒『中庸』関連諸本の考察	単著	1994. 1 (平成6年1月)	『懐徳』62	大阪大学付属図書館が蔵する『中庸雕題』に関連する五種類のテキストの書誌の報告と検討。錯簡説についての新見解を提出する。		66-77頁
7. 『韓非子』における孔子像	単著	1994. 6 (平成6年6月)	『中国研究集刊』14	儒家との相異が指摘されがちな『韓非子』について、孔子像を考察することによって、儒家と法家との共通性を論じ、『韓非子』の思想史上の位置を再検討する。		63-91頁
8. 先秦の儒家文献における哀公説話の展開	単著	1996. 2 (平成8年2月)	『高野山大学論叢』	『春秋左氏伝』『論語』『孟子』『荀子』の検討によって、哀公の事績の多くが意図的に創作されたものであることを証明し、その創作意図である「孔子と対話する君主」という哀公像について考察する。		1-12頁
9. 分類に見る中国の世界観	単著	1996. 3 (平成8年3月)	『類書の総合的研究』 (平成6、7年度科 研費研究成果報告 書)	分類という行為・思想が民族性を反映するものであることを基礎に、『芸文類聚』ではほぼ完成を見る類書の分類に至るまでの、中国人に独特の思想を探る。		127-134頁
10. 『四庫全書総目提要』における『爾雅』評価の考察	単著	1996. 9 (平成8年9月)	『高野山大学論文』	十三經に含まれる『爾雅』であるが、『四庫提要』による評価は非常に低い。しかしながら、その評価は一面的なものに過ぎず、再評価の必要があることを論ずる。		201-212頁
11. 『韓非子』における哀公説話	単著	1998. 2 (平成10年2月)	『高野山大学論叢』	『韓非子』に見られる哀公説話によって哀公が「愚か者」と規定されて行く過程を考察し、後世に与えた影響の大きさを論ずる。		95-112頁
12. 学制に見る空海入唐前の学問	単著	1999. 1 (平成11年1月)	『弘法大師の思想とその展開』高野山大学密教文化研究所紀要1 別冊1	空海入唐前の日本の大学の状況を考察し、空海がなぜ仏教に傾倒して行ったのかを論じる。		117-134頁
13. 『周礼』天官の構成	単著	2000. 2 (平成12年2月)	『高野山大学論叢』	表にすることで、天官の全体像をとらえることを目的とする。卿・大夫・士の爵等および代表的な官職について		65-83頁

14. 高校国語教科書における漢文教材の難点	単著	2002. 3 (平成14年3月)	『高野山大学論叢』	て、『周礼』の構成から見た特徴を解説する。 漢文教材について、現在の教科書に見られる様々な問題点を指摘し、改善案を示す。	67-77頁
15. 『秘密曼荼羅十住心論』の典故表現から見た空海の外教観	単著	2003. 3 (平成15年3月)	『密教文化』210	『十住心論』の文章表現から、道家思想を儒教から仏教への媒介として空海が捉えていたことを論じる。	35-55頁
16. 先秦の書誌文献における太公望説話	単著	2006. 3 (平成18年3月)	『高野山大学論叢』	太公望について、文の周公旦、武の太公望という観点から人物像が作られた可能性について論じる。	
17. 『呂氏春秋』における哀公説話	単著	2006. 4 (平成18年4月)	『中国学の十字路口』 地伸行博士古稀記念集	哀公説話の検討を通じて、雑家と称される『呂氏春秋』にも、首尾一貫した人物像を保つ傾向があることを論じる。	112-124頁
18. 【密教研究会六十周年記念シンポジウム】 概観および抄録	単著	2008. 3 (平成20年3月)	『密教文化』220	標記シンポジウムの概観。さらに、録音したシンポジウムを文章化した。	171-172頁 107-116頁
19. スピリチュアリティと儒教	単著	2008. 3 (平成20年3月)	『高野山大学論叢』	スピリチュアリティあるいはスピリチュアルに関する発言が盛んになりつつあるが、その中でも日本の伝統文化に深く関わる「儒教」への言及がないことを指摘した。	
(学会発表)					
1. 空海の思想に見える中国文化の影響		2006. 9 (平成18年9月)	高野山国際密教学術会		
2. 『韓詩外伝』における哀公説話		2006. 10 (平成18年10月)	日本中国学会第58回会		
(その他)					
1. 本書底本の解題	共著	1994. 3 (平成6年3月)	『懐徳堂文庫本 中庸離題并中庸関係諸本』 (大阪大学懐徳堂文庫復刻刊行会)	大阪大学付属図書館が蔵する『中庸離題』に関連する十一種類のテキストの解題。	199-202頁
2. 大阪大学懐徳堂文庫所蔵『中庸離題』関連諸本	単著	1994. 3 (平成6年3月)	『懐徳堂文庫本 中庸離題并中庸関係諸本』 (大阪大学懐徳堂文庫復刻刊行会)	大阪大学付属図書館が蔵する『中庸離題』に関連するテキストの解説。錯簡説についての新見解を提出する。	218-225頁
3. 大阪大学懐徳堂文庫所蔵『詩離題』関連諸本	単著	1995. 3 (平成7年3月)	『懐徳堂文庫本詩離題』 (大阪大学懐徳堂文庫復刻刊行会)	大阪大学付属図書館が蔵する『詩離題』に関連するテキストの解説。	328-336頁

学会等および社会における主な活動		南
	日本中国学会	
	大阪大学中国学会	
2003年6月～2005年5月 (平成15年6月-平成17年5月)	高野山大学生生活協同組合理事長	
2006年4月～現在 (平成18年4月～現在)	密教研究会 (幹事・編集員)	
2008年6月～現在 (平成20年6月～現在)	高野山大学生生活協同組合監事	
2008年8月 (平成20年8月)	高野山大学夏季セミナー講師	
2009年～現在 (平成21年～現在)	(財)和歌山人権研究所理事	
2009年 (平成21年)	コンソーシアム和歌山大学等地域貢献促進事業審査委員	
2010年8月 (平成22年)	高野山大学夏期セミナー講師	
2010年8月～現在 (平成22年8月～現在)	高野山21世紀医療フォーラム運営委員	
大学行政への係わり (所属委員会)		
平成13年度 (2001年)	学生部協議会 学報編集委員会 図書選択委員会 自己点検基本事項検討委員会 情報処理委員会	
平成14年度 (2002年)	自己点検・評価検討委員会 FD問題検討会議 学生部協議会 図書選択委員	
平成15年度 (2003年)	自己点検・評価検討委員会 教務委員会 (企画講座係) 図書選択委員	
平成18年度 (2006年)	自己点検・評価検討委員会 情報処理委員会 学生部協議会 図書選択委員 創立120周年記念事業委員	
平成19年度 (2007年)	学生募集戦略本部 人権研究会 FD問題検討会議 学生部協議会 図書選択委員	
平成20年度 (2008年)	教務委員会 学生募集戦略本部 図書館協議会 密教文化研究所兼任研究所員	
平成21年度 (2009年)	教務委員会 人権研究会 密教文化研究所協議会 密教文化研究所兼任研究所員	
平成22年度 (2010年)	自己点検・評価検討委員会 教務委員会 人権研究会 密教文化研究所協議会 密教文化研究所兼任研究所員	

所属	文学部	職名	准教授	氏名	南 昌宏	大学院の授業担当の有無 (有)
教育活動						
教育上の主な業績		年月日	概 要			
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			黒板は、端から端まで広く使い、文字が長く残るようにする。板書の文字は手の平大の楷書で難解字にはルビを付す。授業ごとに、初級・中級・上級と格差のある内容にしている。学生には、自分の考えを論理的に明確に表現できるようになるよう、指導している。			
2. 作成した教科書、 教材、参考書		2008. 3. 1 (平成20年3月1日)	講義形式の授業では、受講生が漢文の原文に接するよう、毎回プリントを配布している。 高野山大学において使用する「日本語」テキストを共著。ほぼ毎年、改訂している。 高野山大学大学院通信教育課程テキスト『三教指帰を読む』			
3. 教育方法・教育実践 に関する発表、講演等						
4. その他教育活動上 特記すべき事項		1999年4月 ～2006年3月 (平成11年4月 - 平成18年3月) 2006年4月 ～2007年3月 (平成18年4月 - 平成19年3月) 2001年4月 ～2008年3月 (平成13年4月 - 平成20年3月) 2008年～現在 (平成20年-現在) 2009年 (平成21年)	摂南大学非常勤講師 皇學館大学非常勤講師 高野山高校において漢文の授業を担当 修士論文の口述試問(副査)を担当。 博士論文の口述試問(副査)を担当。			